

# Visual Basic 第4回

# Visual Basicの配列

## 配列

テキスト P.214~

基本的な考え方はJavaの配列と同じ。

※同じ型のデータしかまとめることはできません。

宣言の仕方 ※初期化する必要あり

Dim 変数名(インデックスの最大値) As データ型

配列の要素にアクセス

変数名(インデックス) Javaと同じ

# Visual Basicの配列

テキスト P.220~

## 多次元配列

例 整数型の2次元配列(3×4)の場合の宣言は以下の通り

```
Dim 変数名(3,4) As Integer
```

## 配列のサイズを変更する

ReDimキーワードを用いる。

例)元の配列の要素数が3で5に増やしたい場合

```
Dim List(2) As Integer
```

```
ReDim List(4)
```

※これを使った場合、中身にデータはリセットされる。リセットしないで、サイズ変更したい場合にはReDim Preserveと宣言する。

# EX) 動的配列と配列

動的配列とは、後から要素の数を決められる配列のこと。

動的の反対は静的。 静的配列とは普通の配列のことを指す。

VisualBasicにも動的配列が存在する。

動的配列はプログラマにとっては便利だが、通常、配列で済む場合には配列を用いる。

その理由を考えてみてください。

# 演習

## 実習

テキストChapter6 04(P.230)のプログラミングにチャレンジを読みながら進めてみなさい。終わった人は、P.210の練習問題Aにチャレンジしてください。

それも終わった人は声をかけてください。追加の課題を渡します。

# HINT

- 標準偏差を求める式は以下の通り

$\sqrt{\{(各データー平均値)^2\}の総合計 / データの個数}$

- 配列のインデックスの最大値を求めるメソッドは以下の通り

UBound(配列名)

- 平方根は以下のメソッドを用いて求める

Math.Sqrt(数値)

- 小数点数を第2位までを文字列化するときは以下のフォーマットを指定する

小数点数.ToString("F2")